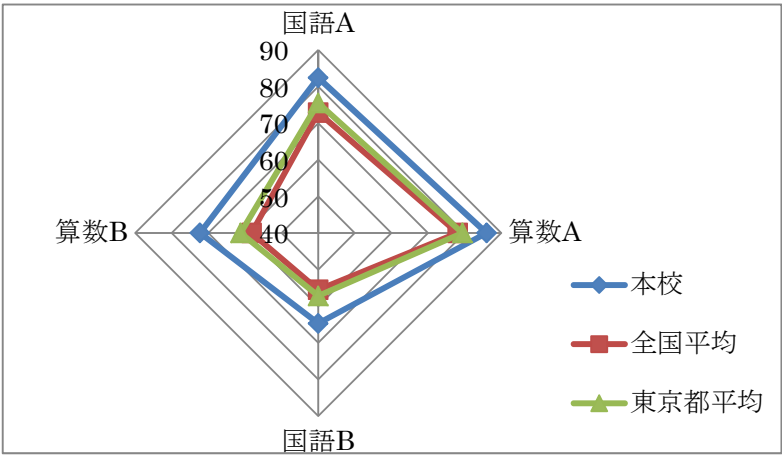


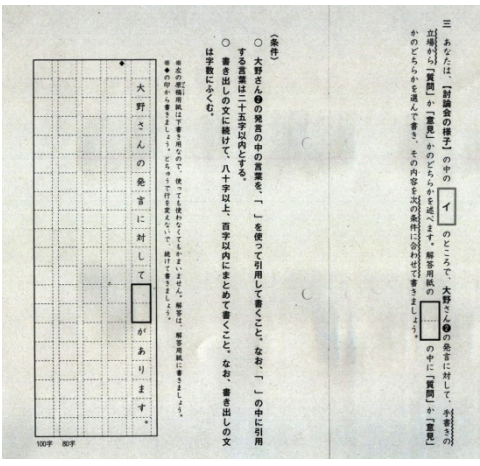
正答数分析



観点別正答率

国語A	本校								
	全国								
	都								
国語B	本校								
	全国								
	都								
算数A	本校								
	全国								
	都								
算数B	本校								
	全国								
	都								

調査問題から



○全体の傾向

- ・各問題で、全国および都の平均値を上回っている。
- ・特に、B問題の集計値に高い傾向が見られる。

○上位層・下位層

- ・本校において、各問題における上位層と下位層の開きは小さい（標準偏差、中央値より）。

○教科の内容

- ・各教科、各観点において、全国および都の平均値を上回っている。
- ・国語Bにおいては、書く能力を見取る問題において正答率が低い。
- ・国語B、算数Bにおいては、記述式の問題形式において正答率が低い。

○正答率

- ・本校児童の正答率は27.7%である。
- ・全国平均は28.3%、都平均は29.2%である。

○誤答分析

- ・本校児童の多く(62.7%)は“「」”を用いなかったり、文字数の制限を満たさなかったりした解答をしている。
- ・自分の立場を明確にせずに解答した児童(2.1%)も見られる。

学 校

○短期的

- ・日々の授業において、文章を読み返す習慣を身に付けさせることで、文章の内容を十分に理解させる。
- ・指導を通して、文章の初めから終わりまでを、内容のまとまりごとに、いくつかに分けていく視点をもたせることで、文章の構成力を育てる。

○中・長期的

- ・コラム(5年生から週1~2回、新聞の記事を中心に取り組んでいる)や作文、意見文、詩などを“書く”活動を、全校で継続して取り組むことで、書く力を育てる。
- ・継続的な対話活動を、全校で推進することにより、自分の立場を明確にする意識を育てる。
- ・東京ベーシックドリルを活用し、前学年の学習内容の定着を図る。算数は、到達度を測定し、定着度を確認、個に合わせて基礎的な力をつけるドリルやチャレンジ問題に取り組む。卒業時までに、4年生の国語、社会、算数、理科の基礎的な学習内容を確実に身に付ける。

家 庭

○日常的な取り組み

- ・各家庭で対話を積極的に行い、会話の内容を筋道立てて構成する力を養う。
- ・新聞や本など、活字に積極的に触れることで文章に親しむとともに、自分なりの考えをもてるようにする。
- ・家庭学習キャンペーンで、東京ベーシックドリルに取り組む。